地球連邦軍
試作型空間戦闘用モビルスーツ
RX-78-5「ガンダム5号機」
1/100スケール
マスターグレードモデル

RX-78-5 GUNDAM G05

E.F.S.F. PROTOTYPE MOBILE SUIT OF SPACE BATTLE USE

©創通・サンライズ

MOBILE SUIT
RX-78-5

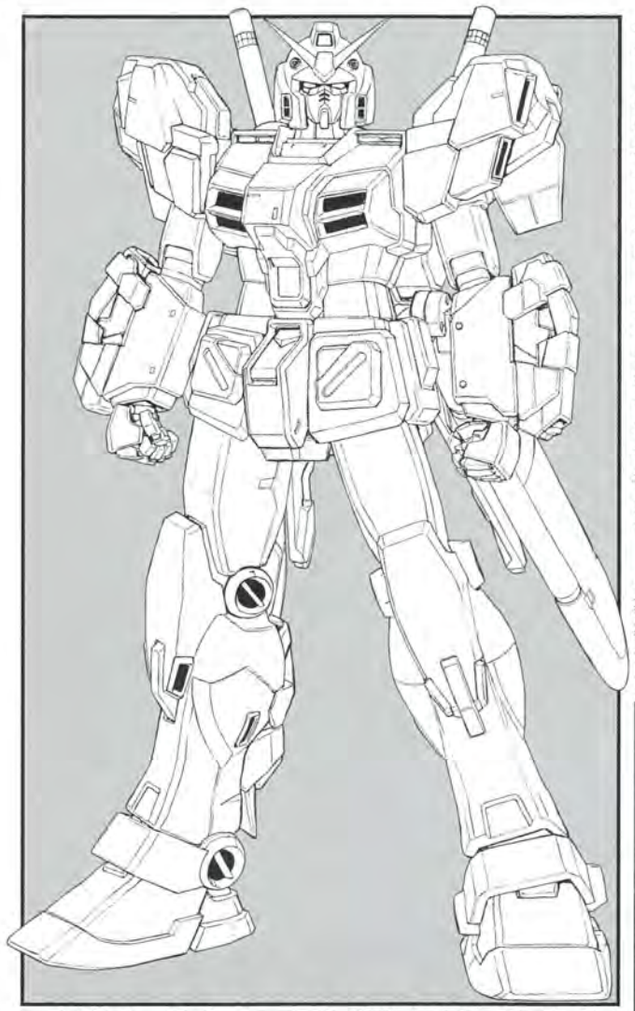
GUNDAM G05

E.F.S.F. PROTOTYPE
MOBILE SUIT OF SPACE BATTLE USE

地球連邦軍
試作型空間戦闘用モビルスーツ
RX-78-5「ガンダム5号機」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2003 MADE IN JAPAN

0120467



RX-78-5 GUNDAM

サイド7の1バンチコロニーにおいてトライアルを行っていた"ガンダム"を始めとするRXシリーズは、原則的に3機づつ建造され、それぞれ1～3号機として、ある程度独自の設計が施されていたと言われている。MS(モビルスーツ)の開発計画は、連邦軍においては最高ランク(AAA=トリプルエー)の機密事項でもあったため、開発や量産の目途が立つまで、その詳細を知る者は軍上層部でもごく一部に限られていた。"ガンダム"のロールアウトから間もなく、MS開発計画そのものの情報は制限が緩和され、MSを必要とする各部門が(計画全体の進捗状況を鑑みた上ではあったものの)独自に機体の開発と調達を行うことが可能となった。いわゆる"4号機"以降の"ガンダム"が複数存在するのはこのためであると言われている。

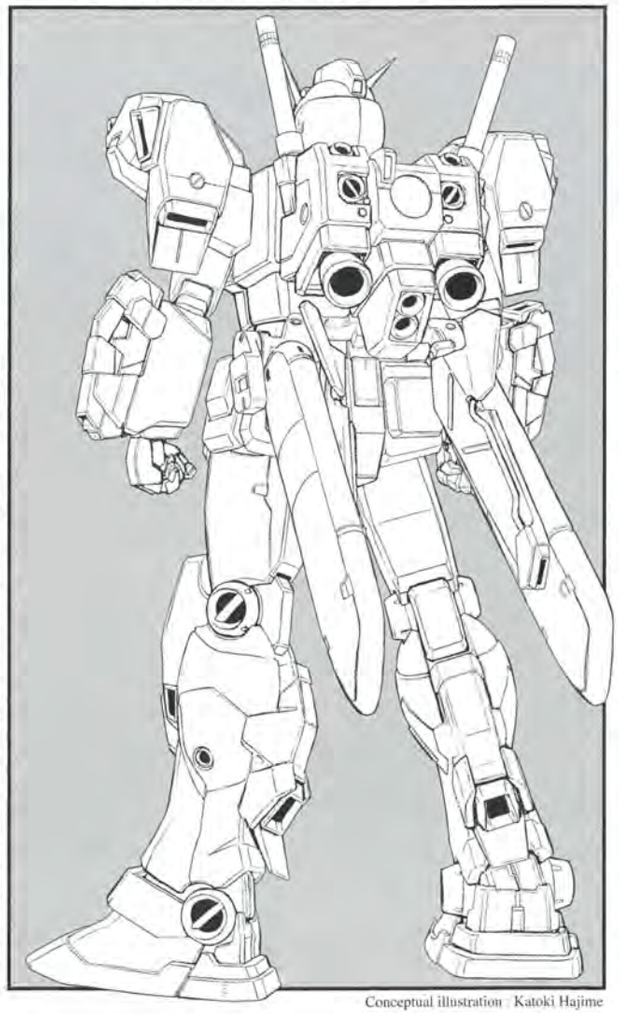
もともと、連邦軍全体の方針としては、本格的な標準機の設計完了と共に生産ラインが既存のものから転換される予定であったが、技術士官や各方面軍令部などの要望もあって、極端な設計変更や規格外品でなければ、独自の設計に基づく機体の試作や量産は、担当部局の裁量に任されることとなった。そのため、本来の生産計画は変更され、緊急性の高い地域への早期配備や、後の技術発展を見越したカスタマイズなどが可能となったのである。こういった事情から、投入から3ヶ月程度の期間内でGM系のMSに多数のバリエーションが存在したり、また、開発初期の段階で独自のコンセプトに基づく複数のリファレンス機が存在することとなったのである。同様に、ある程度の開発能力を持つ研究所や工廠なども各地に点在することとなり、兵装や外装、オプション規格などの混乱や乱立を招いたものの、このことが結果的には連邦軍全体のMS開発・生産能力の底上げに繋がったのだと言うこともできるだろう。

かくして、サイド7において収集されたガンダムのトライアルデータを基に再設計を施された1～3号機"以降"のガンダム系の機体群は、生産性を優先したGM系の機体とは異なり、いわゆる"高性能化"や"特殊化"を指標として開発されることとなったのである。

MSの本格的な投入に伴い、公国軍への反攻を開始した連邦軍は、公国軍の宇宙要塞ソロモンやア・バオア・クー、ひいてはジオン本国攻略の主戦力として使用する目的で、すでに開発途上にあったガンダム4号機および5号機を宇宙戦仕様に改装することを決定した。主な改装点は、あくまでRX-78-2を基本としつつ、ランドセルの換装と各部サブスラスターの増設、プロペラント容量の増加などを施すことで、空間戦闘時における機動力を40%程度向上させている。また、オプションのプロペラントタンクなどを装着することで稼働時間も延長され、長時間の戦闘、特に要塞攻略などにおける多大な戦果が期待されていた。

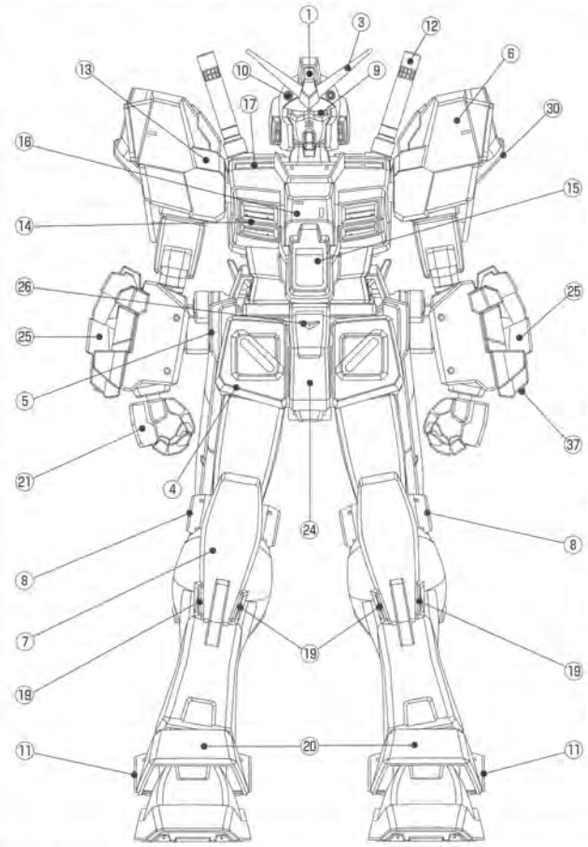
その一方で、コア・ブロック・システムは、代替装備の完成やコストの問題などから採用は見送られることとなり、それによって余裕ができたスペースを冷却システムなどに使うことでジェネレーターの能力や稼働効率が向上した。そのため、より強力なビーム兵器の運用が可能となっており、同機はビーム・ライフルを強化したハイパー・ビーム・ライフルおよび、ビーム・ガンを左右腕部に一門づつ装備している。この改装は4号機および5号機の双方に施されたものだが、4号機のジェネレーターは、メガ・ビーム・ランチャー稼働のためさらに高出力化され、あわせて冷却システムなどもより強化されたため、胸部の冷却フィンなどの形状が5号機と異なっている。ただし、エネルギーCAPの容量不足の問題が解決されておらず、実際に運用可能であるかどうかの判断が下されないまま、出撃後も調整を続けていたと言われており、運用時の信頼性は5号機の方が高かったと言えるだろう。

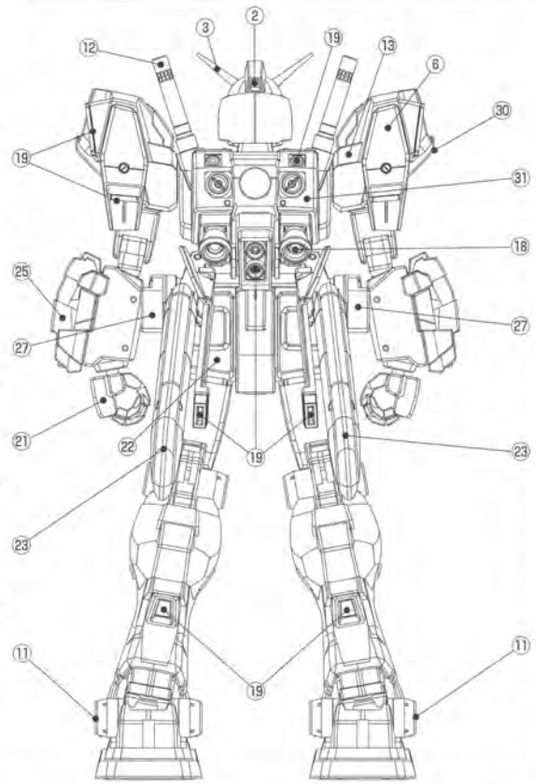
同機はWB級準同型強襲揚陸艦「サラブレッド」を旗艦とする「第16独立戦隊」に4号機とともに配備され、U.C.(宇宙世紀)0079年12月2日に南米ジャブロー基地より出撃した。隠密行動を主任務とするこの艦隊の目的は、公国軍の月面基地グラナダと宇宙要塞ソロモンの補給路を寸断することにあった。ちなみにサラブレッドは、かつて大改修のためにジャブローでドック入りしたWBに隣接するヤードで艤装を受けていた艦であると言われている。



Conceptual illustration : Katoki Hajime

RX-78-5 GUNDAM

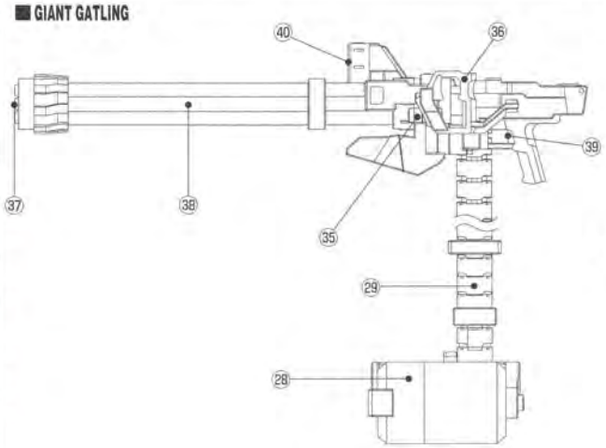




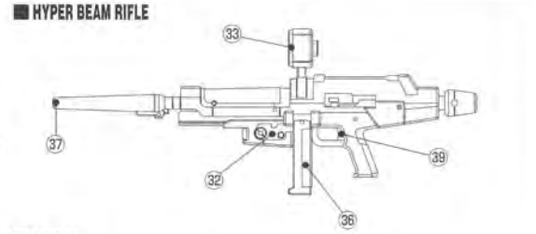
①メインカメラ	⑨デュアルセンサー	⑰サブインテーク/ダクト	㉕ビーム・ガンユニット	㉝サイトセンサー
②リアカメラ/センサー	⑩60mmバルカン	⑱メインスラスター	㉖エンブレム	㉞シールド
③マルチブレードアンテナ	⑪アンクルジョイントアーマー	⑲サブスラスター	㉗マウントラッチ	㉟ショートレンジセンサー
④フロントアーマー	⑫ビーム・サーベル	⑳アンクルサポートユニット	㉘ヘリカルローディングドラムマガジン	㊱フォアグリップ
⑤サイドアーマー	⑬ショルダーアーマー	㉑マニピュレーター	㉙フレキシブルプレットサプライベルト	㊲マズル
⑥コンポジットタンクユニット	⑭インテーク/ダクト	㉒リアアーマー	㉚ホールドラッチ	㊳ローリングバレル
⑦ニーアーマー	⑮コクピットハッチ	㉓プロペラントタンク	㉛ランドセル	㊴トリガー
⑧ニージョイントアーマー	⑯メンテナンスハッチ	㉔ペンチレートボックス	㉜センサーユニット	㊵ロングレンジセンサーユニット

注）この機体は、南米ジャブロー基地の工廠において建造されたもので、各部改装に前後して、オーガスタ基地より派遣された次世代宇宙空間用高機動MSの開発及び実験部隊のスタッフによる調整を受けたものである。同機および4号機は、そのスタッフとともにWB級準同型強襲揚陸艦サラブレッドに配備された。

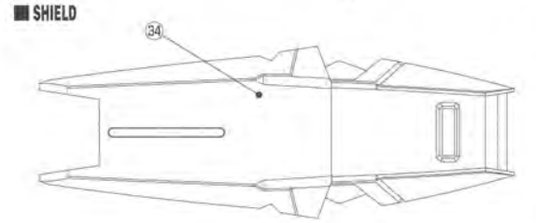
■GIANT GATLING



■HYPER BEAM RIFLE

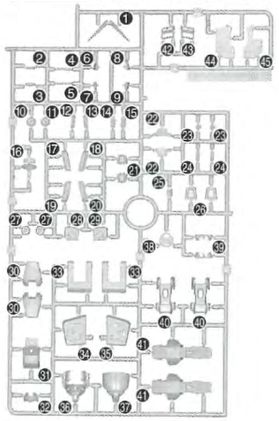


■SHIELD

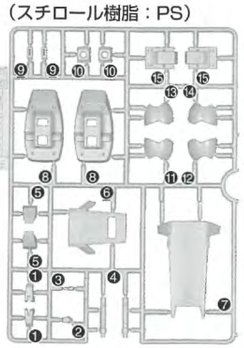


パーツリスト

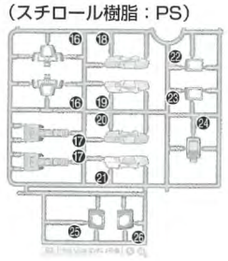
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）



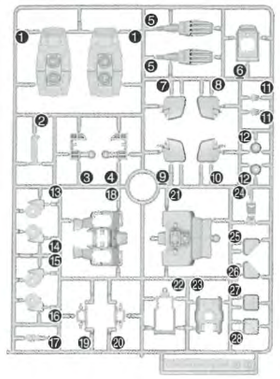
B1パーツ（スチロール樹脂：PS）



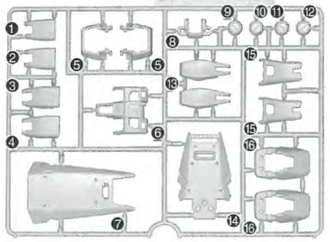
B2パーツ（スチロール樹脂：PS）



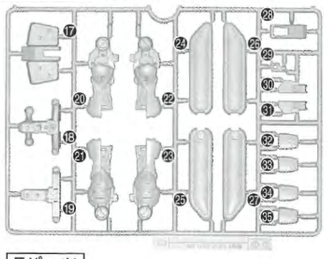
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



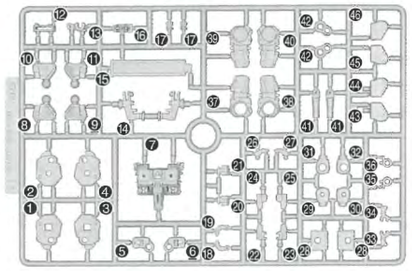
D1パーツ（スチロール樹脂：PS）



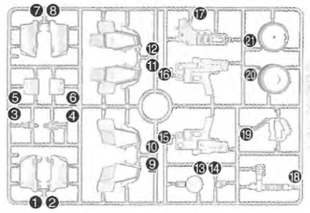
D2パーツ（スチロール樹脂：PS）



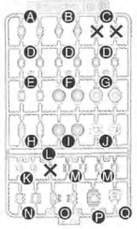
Fパーツ（ABS樹脂：ABS）



Eパーツ（スチロール樹脂：PS）

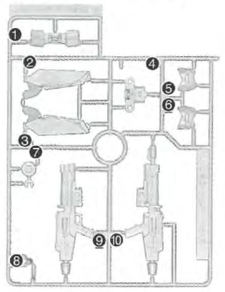


PC-126プラス（ポリエチレン：PE）

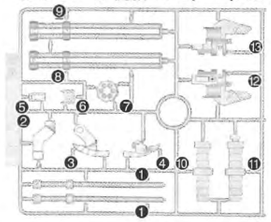


SB1パーツ（スチロール樹脂：PS）

Gパーツ（スチロール樹脂：PS）

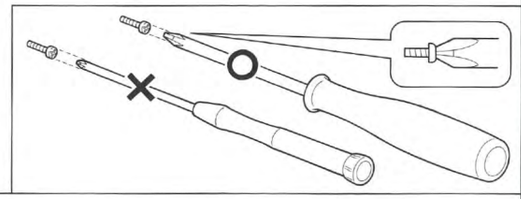


I1パーツ（スチロール樹脂：PS）



I2パーツ（スチロール樹脂：PS）

カラーシール……1枚
マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚
ビスTP2×6座付……2個
リボンケーブル……1本
（塩化ビニル樹脂：PVC）



⚠ 注　意

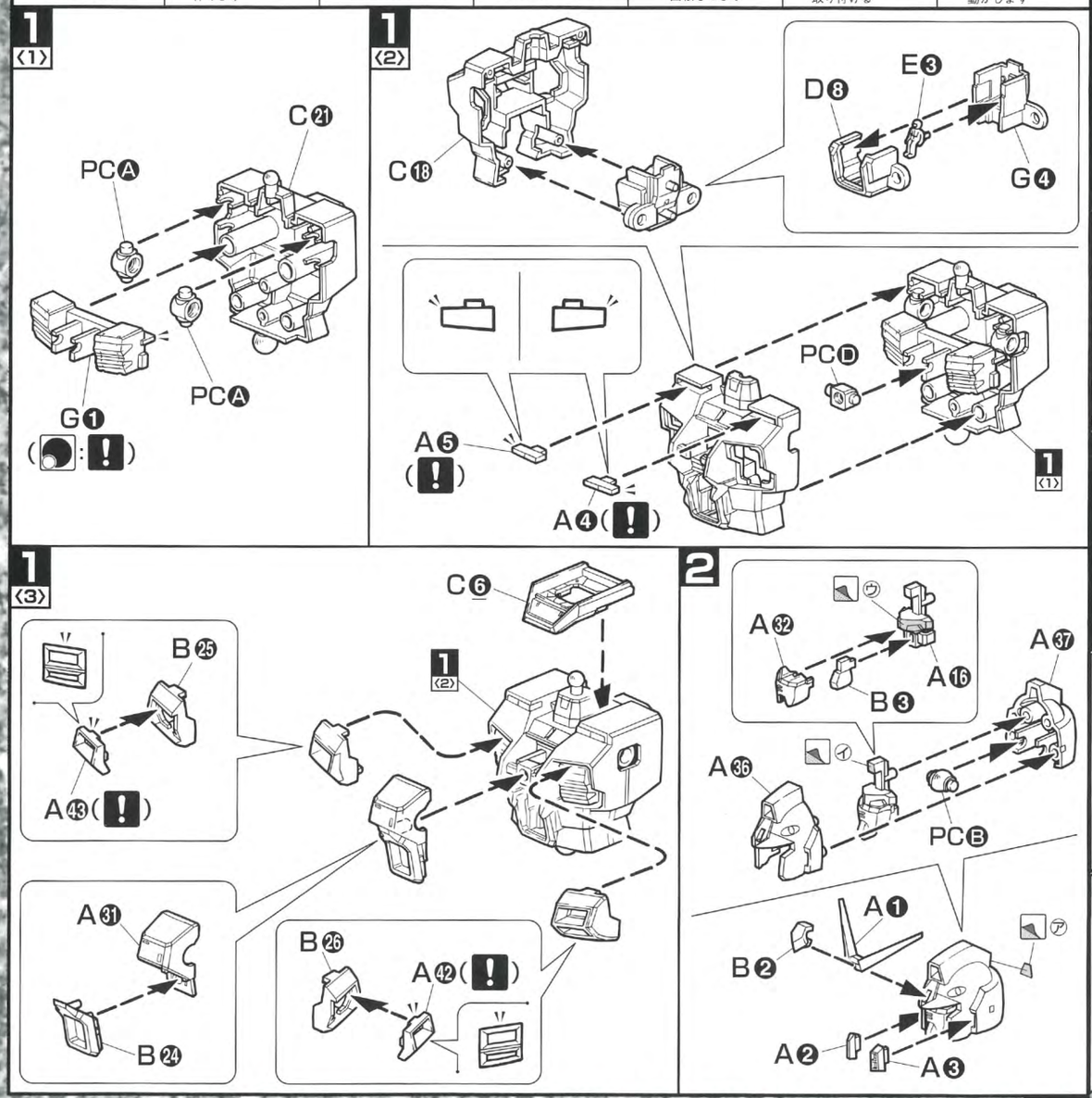
お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- ●本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ●小さな部品がありますので、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ●ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- ●尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

〈組み立てる時の注意〉

- ●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- ●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- ●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- ●塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ●尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

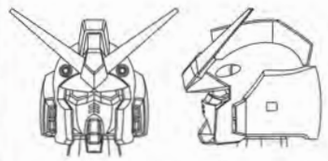
※このキットの組み立てには＋（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。



HEAD UNIT

RX-78-5 ガンダム5号機の頭部は、基本的にはRX-78-2"ガンダム"に準じた部材やデバイスが使用されているが、次世代高性能機用にアップデート済みのユニットが多く使用されている。

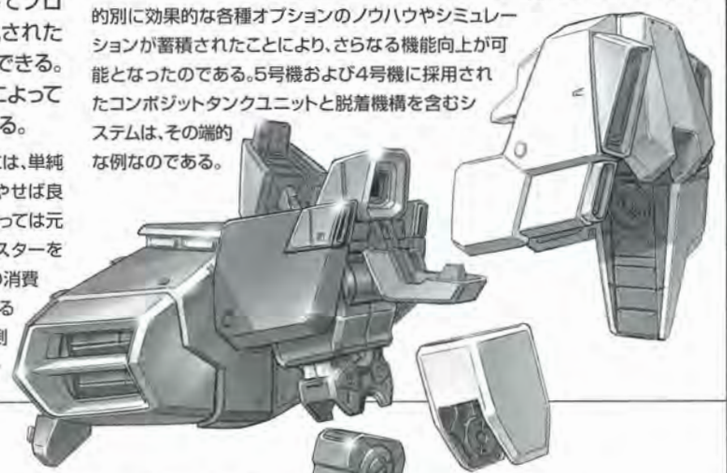
RX-78-5の頭部は、RX-78-2とほぼ同等の光学端末および演算装置が搭載されているが、連邦軍製のMSの生産がある程度進展して以降のものが使用されているため、信頼性や耐久性が向上しているほか、宇宙空間における戦闘に特化することが決定してからは各パーツが空間走査用のスペックに調整された上で実装されている。また、各種のデバイスやセンサー類は、機能を維持したままでの小型化が達成されつつあるものが多く採用されており、コア・ブロック・システムに依存しないデータ収集や稼働ソフトの検証に必要な副次的コ・プロセッサーフレームおよびモニタリング用装備などのサブシステムが新たに装備されている。特に、5号機と4号機の連携が当初から企図されていたため、強力なデータリンクおよびモニタリングに応じたアーキテクチャーが構築されている。また、デュアルセンサーのカバーや 頭部バルカン砲など、弾頭の形状や材質、炸薬のエマルジョンなども見直しが検討されはじめており、既存の機体との互換性を確保するか、新たな規格を採用するかといった過渡的な機体となっている。



SHOULDER UNIT

5号機のショルダーユニットは、必要に応じてプロペラントタンクとスラスターユニットが一体化されたコンポジットタンクユニットを装着することができる。このユニットは専用の可動式ホールドラッチによって固定され、機体の機動性を飛躍的に向上させる。

宇宙空間においてMSの機動力を向上させるためには、単純にスラスターやプロペラントの設置数や積載量を増やせば良いというものではない。それによって自重が増えてしまっては元も子もないからだ。本来、MSの優位性は、四肢とスラスターを有機的に連動させるAMBAC機動によって、推進剤の消費を抑え、既存の機動兵器よりも効率的な機動が得られることにあった。ただし、実際の運用に伴って、当初は過剰と思われたレベルでのプロペラント積載やスラスターの増設などがそれなりに有効であることが判明し、また、各部のコンストラクションそのものや装甲材および構造材などの改善もあって、機体重量の増加と機動力の向上をバランスさせながら、さらに追い込むことが可能となった。つまり、目的別に効果的な各種オプションのノウハウやシミュレーションが蓄積されたことにより、さらなる機能向上が可能となったのである。5号機および4号機に採用されたコンポジットタンクユニットと脱着機構を含むシステムは、その端的な例なのである。



ARM UNIT

5号機には、先行していたRX-78-2ガンダムなどの試作機の実戦投入によって得られた運用データが反映されており、いわゆる固定武装の強化も懸案となっていた。その解答のひとつが、腕部に装備されたビーム・ガンである。

連邦製MSは、その可動部分にフィールドモーターを使用しているため、ユニット自体の小型化に伴って、ユニットの容積を減らすことが可能だった。実際、初期の試作機であったRX-78-2"ガンダム"自体、腕部にサブスラスターを装備することも可能であったし、その構造そのものをスリム化したジム系の機体の量産体制も整いつつあった。併せて、ビーム・ライフルなどの携行武装を消耗、損壊した場合の戦闘能力の低下を指摘する声もあったため、固定武装を追加装備する試みが実行されることとなった。RX-79系の機体の内、胸部に機銃などを装備した機種が存在したのもそのためである。5号機の腕部に装備されたビーム・ガンは、機体のジェネレーター出力の向上に伴って試験的に装備されたもので、戦闘時における有効性やコスト、整備性の検証のために実装されている。このビーム・ガンユニットにはシールドが装着できるよう、マウントラッチも装備されている。ちなみに、5号機および4号機の四肢にはデフォルトでマグネット・コーティングが施されている。

Mechanism illustration : BEE-CRAFT

A HANGAR

U.C.0079年12月2日。ジャブローからWB級準同型強襲揚陸艦「サラブレッド」が出撃し、ルナツーで合流した2隻のサラミスと共に、サラブレッドを旗艦とする「第16独立戦隊」を編成した。この戦隊は高度な"潜航"装備による隠密行動が可能であった。さらにその格納庫には、2機の"ガンダム"RX-78-4ガンダム4号機と、RX-78-5ガンダム5号機が静かに出撃の時を待っていた。宇宙戦用に改装された2つの機体は、大幅な設計見直しとジェネレーター出力の向上などを受けて、当時としては屈指の戦闘能力を持つに至った。しかし、それらの技術は最先端である一方で、未成熟なものでもあった。それでも、サラブレッド隊が帯びることになる任務は、この戦争の行方を左右するかもしれない重要なものとなるのだが、今はまだクルーもパイロットたちも、そして2機のガンダムも、そのことを知らない……。

DON'T PUSH YOUR LUCK!

第16独立戦隊の主任務は、チェンバロ作戦の発動に伴い、まずは公国軍の月面基地グラナダの動向を監視することにあった。5号機を駆るのはテストパイロットあがりのフォルド・ロムフェロー中尉。4号機を駆るのはベテランパイロット、ルース・カッセル中尉である。これまでの訓練を通じ、フォルドはルースの経験や能力を認めつつも、それゆえに戦闘に関しては慎重すぎることに多少の苛立ちと反発を感じてもいた。折しも第16独立戦隊はグラナダへの途上で公国軍の偵察艦隊と遭遇。3隻のムサイとMS部隊に先制攻撃を仕掛ける。待ちに待った実戦だというのに、おせっかいなオペレーターが余計な忠告をしてくる。「ムチャするな？それこそ無理だぜ！」直掩のザクを屠ったフォルドはムサイめがけ突進する「ひゃっほー！」「浮かれ過ぎだ!!フォルド！」フォルドはルースの警告を無視して敵の真っ只中に突っ込んで行く!!

GIANT GATLING

U.C.0079年12月24日。度重なる戦闘で疲弊していたサラブレッド隊のクルーたちは、隠密行動ゆえの戦力不足を痛感していた。そんな状況の中、サラブレッド隊は大規模な敵艦隊を捕捉してしまう。「…今の状態では、まともにやって勝てる戦力じゃないな…」「どうするんだよ？それでも戦うしかないだろ」「あれを……使ってみるか」ルースはクルーを説き伏せ、4号機にメガ・ビーム・ランチャーを装備する。フォルドはその新装備を羨んだが、ルースは自分が大きなリスクを冒そうとしていることを知っていた。ランチャー用のエネルギーユニットパックはろくなテストも行われておらず、この戦闘での使用が初めての稼働となるからだ。最悪のケースも考えられるが、しかし、これ以外にサラブレッド隊が生き延びる手段はない。敵艦隊から発進する無数のMS群に対し、本来の計画通りに2機編成によるフォーメーションで出撃する5号機と4号機。「あともう少し……もってくれよ！」ルースは4号機のエネルギーの全てをメガ・ビーム・ランチャーに注ぎ込む。「ルース！ 早くしないと俺が全部掃除しちまうからな!!」4号機を援護しつつ、フォルドはジャイアント・ガトリングを撃ちまくる!!

◀ジャイアント・ガトリングは腰部マウントラッチに取り付ける事が出来る。

▲機体の各部には、注意書き等のマーキングシールをセット。

FORUD ROMFELLOW

部隊章

パーソナルマーク

◀フォルド・ロムフェロー
24歳、中尉。
ガンダム5号機のパイロット。テストパイロット出身で、実戦経験はほとんどないが、その腕はたしかであり、ルース中尉との連携は無敵を誇る。しかし戦闘の真の恐ろしさを知らず、戦いを"楽しんでしまう"ところがある。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(「ガンダム4・5号機」用、その他カラーセット)をお使いください。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

- 本体等ホワイト部の塗装色。ホワイト(90%)+イエロー(7.5%)+ブラウン(2.5%) ※またはガンダムカラー ホワイト12
- クツ等レッド部の塗装色。シャインレッド(100%) ※またはガンダムカラー レッド7
- インテーク等イエロー部の塗装色。イエロー(40%)+ホワイト(30%)+オレンジ(30%)
- 関節等グレー部の塗装色。ニュートラルグレー(100%)
- ハイパー・ビーム・ライフル等ライトグレー部の塗装色。ホワイト(50%)+ブラック(30%)+スカイブルー(20%)
- ジャイアント・ガトリング、タンク等ライトグレー部の塗装色。ホワイト(90%)+ブラック(10%)+パープル少量
- 目等クリアグリーン部の塗装色。クリアグリーン(100%)
- センサー等イエローグリーン部の塗装色。イエローグリーン(100%)

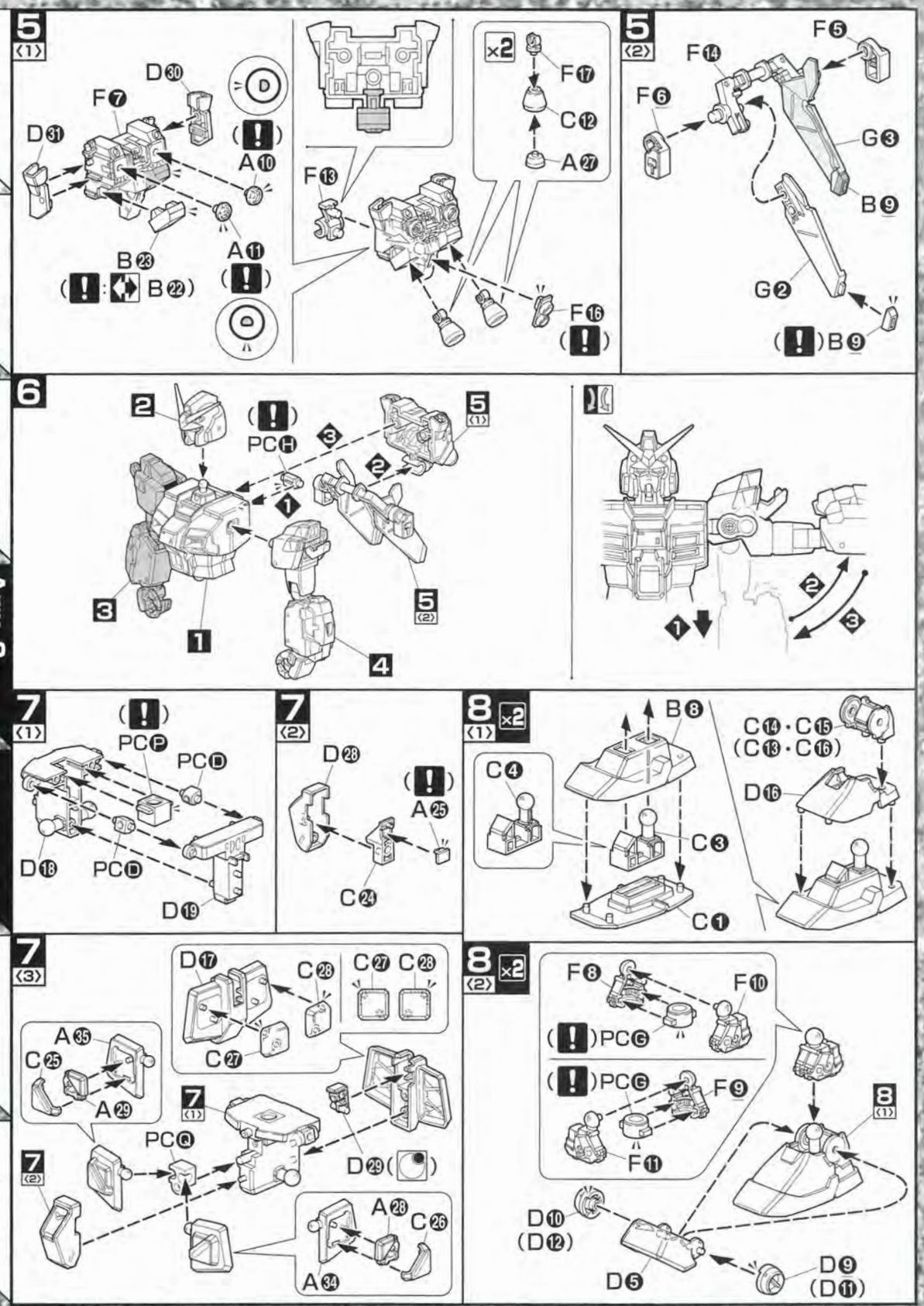
◀背部ランドセルは、装甲の脱着が可能。内部メカディテールも精密に再現。

▲1/100スケールのパイロットフィギュアを精密な造形で再現。

▲ハイパー・ビーム・ライフル、ジャイアント・ガトリング、ビーム・サーベル、シールド等の各種装備をセット。

▲前腕ビーム・ガン、脚部スラスターは取り外し可能。接続部分のディテールを精密に再現。

▲肩関節部の引き出し可動によりジャイアント・ガトリングを両腕で構える事が可能。



BODY UNIT

5号機の背部から腰部に至るユニットには、ジェネレーターの出力向上に伴う強力な冷却ユニットが装備されている。また、ランドセルの下面には5号機および4号機専用オプションのパイロンが増設され、それぞれの装備を装着、懸架できるようになっている。

5号機および4号機は、設計当初からコア・ブロック・システムの排除が決定していたため、下腹部のベンチレートユニットのみならず、ランドセルにも設けられていた冷却機構などを大幅にボディへ移設することが可能となり、より高いジェネレーター出力を獲得することができた。それにより、各部バーニアスラスターの燃焼効率も向上し、トータルでの推力が向上した。逆に言えば、より多くの推進剤が必要になったと言うこともできる。そのため、戦闘最大出力時間の延長を図るべく、プロペラントタンクの装備を前提とした改装が施されている。まず、ランドセル下面にプロペラントタンクのターミナルと、タンクホルダー兼用のサブスラスターユニットが装着できるようになっている。この装備は、無論、プロペラントが空になればタンクそのものは投棄されるが、いわゆるドロップタンクのように、戦闘時に即、投棄されるものではなく、タンクのパイロン(支持架)にサブスラスターが装備されていることからもわかるように、補助推進装備の一部となっているのである。これらはメインスラスターなどの噴射軸に干渉しない位置に据えつけられ、5号機および4号機の戦闘時の機動性を飛躍的に向上させているのである。さらにこのパイロンの両端には新規格のラッチが装備されており、4号機のエネルギーパックとメガ・ビーム・ランチャー、5号機のヘリカルローディングドラムマガジンとジャイアント・ガトリングなどを装着、懸架できるようになっている。

LEG UNIT

5号機および4号機の脚部は、RX-78-2などの実働データをもとに、マグネット・コーティング処理が標準で施されている非常に運動性の高いユニットである。足下やふくらはぎ部のサブスラスターの推力向上もあり、同機の基本スペックを支えている部位と言える。

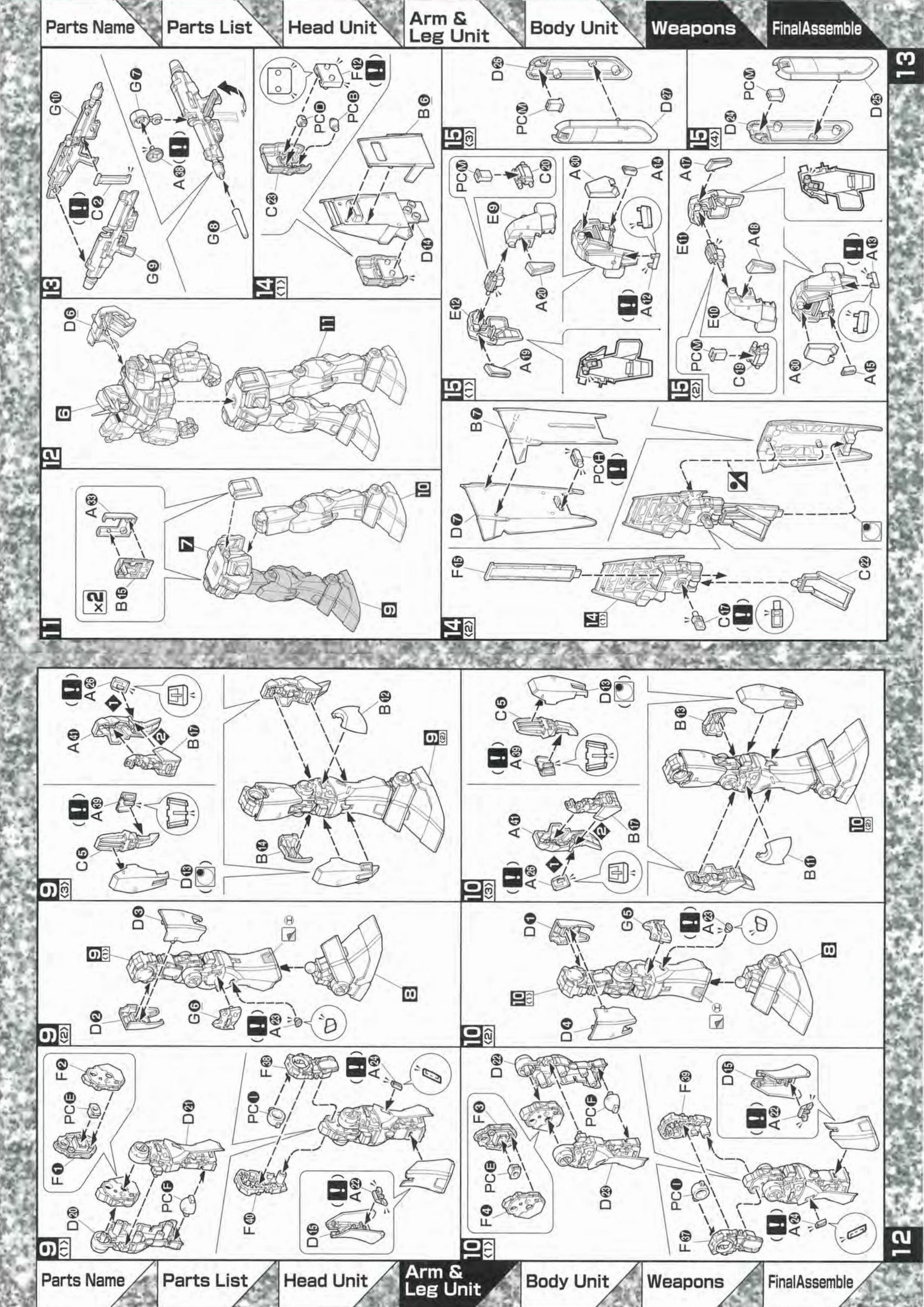
5号機および4号機の脚部ユニットは、各関節部に標準でマグネット・コーティング処理が施されており、既存の機体よりもはるかにレスポンスが改善されている。それに加え、肩部のコンポジットユニットに匹敵する推力を持つブースターユニットを後脛部(ふくらはぎ)に設置することにより、足下のサブスラスターと併せて高い機動性を獲得している。一説には、5号機および4号機は、当時のAMBAC機動の理論値の限界に近い機動性を獲得していたとも言われている。無論、その限界値は、後に構造材や装甲材、アクチュエーターなどの進化に伴って年々引き上げられては行くのだが、一年戦争時に想定されていた機能向上の予測ロードマップを大幅に上回るものだったことは事実であり、これは空間戦闘において大きなアドバンテージであったことは間違いないだろう。また、このブースターユニットを相当数確保しておけば、作戦行動時におけるローテーションを短縮することが可能となる。これは肩部のコンポジットユニットや背部のプロペラントタンクについても言えることであり、まさに自動車レースにおけるピット作業のように迅速な再出撃も不可能ではないだろう。ただし、この機体が実際にそのように運用されたかどうかは定かではない。

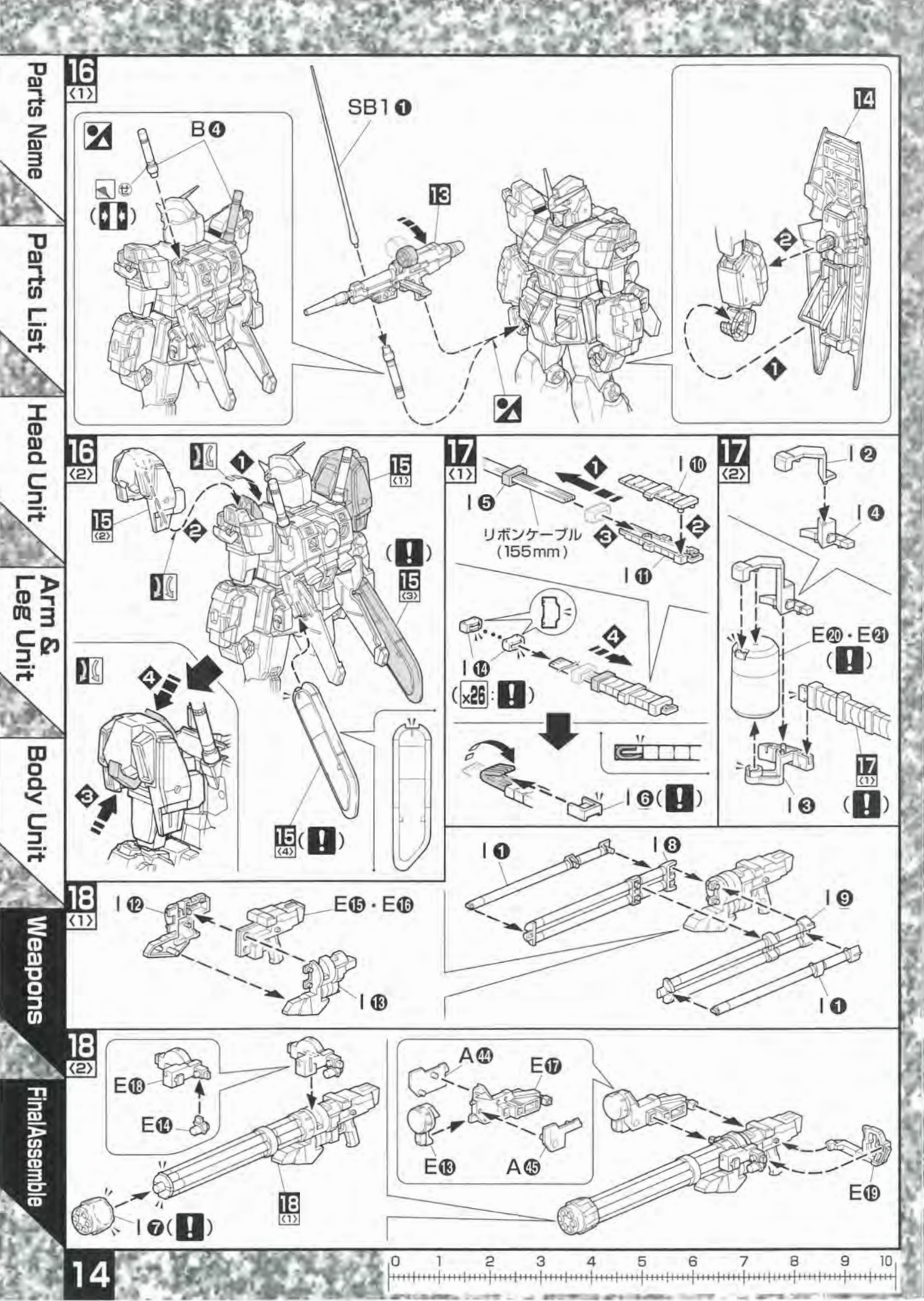
WEAPONS

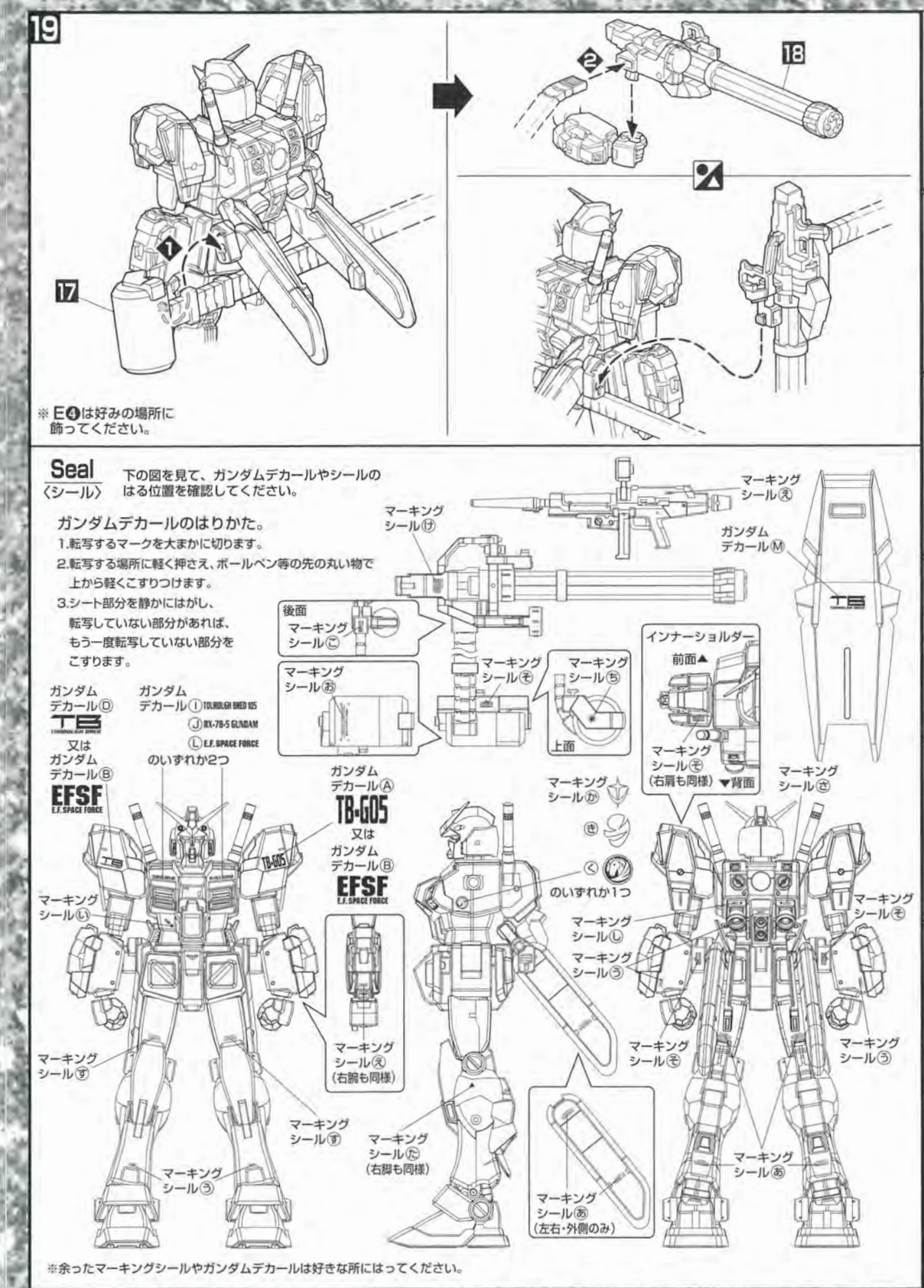
5号機および4号機は、既存の機体よりもジェネレーター出力が向上しているため、それに対応した武装が用意されていた。ただし、両腕のビーム・ガンは有効射程が短く、近接戦闘時においてようやく有効であったと言われている。

ジャイアント・ガトリング

5号機は当初から4号機との連携が想定されており、武装に関しても互いを補完するよう考慮されている。つまり、4号機のメガ・ビーム・ランチャーが運用できなかった場合に備え、信頼性の高い実体弾兵器のうちでも屈指の威力を持つ本武装が施されることとなったのである。口径は90mmで、装弾数は3000発。ケースレス弾を使用し、射速は毎秒50発。また、バレルの焼き付きを防ぐため、5秒のトリガーリミッターが施されている。無論、マニュアル操作によるリミッター解除は可能であり、弾丸が尽きるまで連射することも不可能ではないが、その際の発射、動作保証はなく、最悪の場合暴発、あるいは機関部の破損も起こり得るとされている。


13
G10
G7
A38
C2
G9
G8
14 <1>
F12
PCD
PCB
B6
C23
D14
15 <3>
D26
PCM
D27
15 <4>
PCM
D24
D25
15 <1>
PCM
C20
E9
E12
A20
A19
A30
A14
A12
15 <2>
A17
E11
A18
E10
PCM
C19
A13
A30
A15
12
D6
6
11
11
A33
B15
×2
7
10
9
14 <2>
B7
PCH
D7
F15
14 <1>
C17
C22
9 <3>
A26
A41
B17
A39
C5
D18
B12
B14
9 <2>
9 <1>
D3
9 <2>
D2
G6
A23
8
10 <3>
D13
C5
A39
B13
A41
B17
A26
B11
10 <2>
10 <2>
D1
G5
A23
8
10 <1>
D4
10 <1>
D22
F3
PCE
F4
D23
PCF
D15
A22
F39
PCI
F37
A24
9 <1>
F2
PCE
F1
D21
D20
PCF
F38
PCI
F40
A24
D15
A22


16 〈1〉
B❹
SB1❶
13
14
16 〈2〉
15 〈1〉
15 〈2〉
15 〈3〉
15 〈4〉
17 〈1〉
❶
❷
❸
❹
❺
❻
❼
❽
❾
❿
⓫
⓬
⓭
⓮
リボンケーブル
(155mm)
×26
17 〈2〉
E⓴・E㉑
17 〈1〉
18 〈1〉
E⓯・E⓰
18 〈2〉
E⓲
E⓮
A㊹
E⓱
E⓭
A㊺
E⓳
18 〈1〉


19
❶
❷
17
18
※ E❹は好みの場所に
飾ってください。
Seal
〈シール〉
下の図を見て、ガンダムデカールやシールの
はる位置を確認してください。
ガンダムデカールのはりかた。
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で
上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、
転写していない部分があれば、
もう一度転写していない部分を
こすります。
マーキングシールけ
マーキングシールえ
ガンダムデカールⓂ
後面
マーキングシールこ
マーキングシールお
マーキングシールそ
マーキングシールち
上面
インナーショルダー
前面▲
マーキングシールそ
(右肩も同様)
▼背面
ガンダムデカールⒹ
又は
ガンダムデカールⒷ
EFSF
E.F.SPACE FORCE
ガンダムデカールⒾ TOUROUGH BRED 105
Ⓙ RX-78-5 GUNDAM
Ⓛ E.F. SPACE FORCE
のいずれか2つ
ガンダムデカールⒶ
TB-G05
又は
ガンダムデカールⒷ
EFSF
E.F.SPACE FORCE
マーキングシールか
き
く
のいずれか1つ
マーキングシールさ
マーキングシールい
マーキングシールし
マーキングシールう
マーキングシールそ
マーキングシールえ
(右腕も同様)
マーキングシールそ
マーキングシールう
マーキングシールす
マーキングシールす
マーキングシールた
(右脚も同様)
マーキングシールう
マーキングシールあ
マーキングシールあ
(左右・外側のみ)
※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。